

平成26年度第2回東郷湖活性化プロジェクト推進会議 会議録

日 時 平成27年3月25日(水)午前10時00分～午前11時45分
場 所 湯梨浜町役場 2階第1・2会議室

1. 開 会

(仙賀副町長)

時間になりましたので平成26年度第2回東郷湖活性化プロジェクト推進会議を開催したいと思います。開会にあたりまして、山田会長からあいさつをお願いしたいと思います。

2. 会長あいさつ

(山田会長)

おはようございます。推進会議にご出席いただきありがとうございます。この間、福祉大学の学長が「自分は帝国主義者だ」と言うんですね。この時代に福祉の大学の先生が、帝国主義者とはどういう事かと思っていたら、時間をきちっと守るという意味の定刻主義者なんですね。この回も定刻主義で行きたいと思いますのでよろしくお願いします。今、時代の大きなキーワードが「地方創生」と言われています。いろいろな市町村が一生懸命地方創生のプログラムを作っていますが、たぶんその決め手は「無い物ねだり」するのではなくて「有る物の良さをいかに伸ばすか」という事だろうと。そういう意味ではこの東郷湖というのは湯梨浜の大きな財産だと。この湯梨浜をどうやって、有る財産の東郷湖と他のいろいろな有る物を使って元気にしていくのか。そういう意味でもこの活性化プロジェクトで考えられれば良いなと思っています。それで、今日は26年度の下半期の進捗状況のご報告を受けながら、27年度の計画、そして今申し上げた「地方創生」のことも話が出来れば良いなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 町長あいさつ

(仙賀副町長)

続きまして、町長の方よりあいさつをお願いします。

(宮脇町長)

はい。皆さんおはようございます。山田先生は、ちょうど卒業式ですとか、あるいは看護大学の竣工、開校といったことを控えておられますし、大変お忙しい中ですが山田先生をはじめ皆様方におかれましては、年度末の何かと慌ただしい中、ご参集いただきましてありがとうございます。今日は、先程山田先生が申された内容でご審議いただく訳ですが、東郷池の周りは、27年度は多少、より具体的なことが動き出すと。今は既に「めぐみのゆ」の羽合よりの所の芝生が植えてある丘のような所に、芝桜を植える作業を着手していただいていますし、「日米友好のハナミズキ」も採用と言いますか、

採択と言いますか、湯梨浜町にアメリカからハナミズキをいただけるという事になりまして、その植樹も4月には行えるという見込みとなっております。また、全国の市町村の振興協議会というところが実施しております「地域の魅力を掘り起こす事業」というものがありまして、これは1千万円ずつ当の市町村にお金を出して地域づくりを支援するという制度なんですけど、今年はそれに手を上げまして、申込の数が随分多く200とかそういう自治体から出てきておりまして、1千万は無理なので半額に落とされると思いますけど、それも一応採択が決まりまして、それで、なかなか一般財源での対応は難しいかなと思っていた天女のモニュメントあたりの部分についても、お金を充てれば進むのでは、天女のモニュメントが作れるようになるかなと思っておりまして、そういった意味で、より見える形で東郷湖の整備が進んでいくと思っております。この東郷湖活性化プロジェクトは東郷湖の環境をベースに周辺の地域の魅力を高めながら、町の振興を図ろうということでございまして、これまで皆さんより多大なご尽力を色々な方面よりいただいて参りまして感謝申し上げたいと思います。先程、山田会長のお話にもありましたとおり「地方創生」ということでこれから始まります。要するに東京の人口の一極集中を克服して是正し、地方を再生して地方に人が住み、子供の人口、生まれる数を増やして、日本の人口の定着化を図るというものが、究極の目的のようございまして、そういった意味からも湯梨浜町にきちんと「魅力のあるそして足腰の強いまちづくり」に一層励んで参りたいと思います。引き続き皆さんのご協力とお力添えをよろしく願い致したいと思います。本日はありがとうございます。

(仙賀副町長)

そうしますと、4番以降の会の進行につきましては、会長の方でお願いします。

4. 協議事項

(山田会長)

はい。協議事項に入りますが、初めに時間設定です。いつもは11時半頃で1時間半ですが、意見交換を入れていきますので場合によってはプラス10分、15分というところで、11時40分から45分をマキシマムの時間にしたいと思いますのでご了解ください。では、協議事項に入ります。(1)の「平成26年度事業進捗状況について」ということで、それぞれの担当の部分からご説明をいただきますが、資料の5ページからでしょうか。ナンバーで申し上げますので、そのNo.1から順にご説明をお願いします。下半期ということで行きます。それではNo.1をお願いします。

(1) 平成26年度事業進捗状況について

No.1 「水草（セキシウ藻）の移植について」

(前田町民課長)

はい。「水草（セキシウ藻）の移植」ということでございます。東郷池で新たに発見されたセキシウモを移植して再生を図ろうという事業でございまして、昨年の10月5日に各団体に協力をいただきまして、移植を実施いたしました。現在、その経過観察中でございます。目標に対する達成度は100%という状況です。引き続きでよろしいですか。

(山田会長)

はい。まず、環境部分をお願いします。

No.2 「東郷池を守るアダプトプログラム制度の推進」

(前田町民課長)

はい。2番「東郷池を守るアダプトプログラム制度の推進」ということでございます。26年度につきましては、現在30団体に活動していただいているんですけども、新たに2団体の増を目標に活動して参りました。ただ、実質的には1団体しか増えなかったということで、達成度は50%という状況でございます。以上です。

(山田会長)

はい。次、3番をお願いします。

No.3 「内水面の環境保全」

(清水産業振興課長)

「内水面の環境保全」ということで、東郷池のクリーンアップ事業を実施しております。漁協さんを中心に鋤簾（ジョレン）の方で、湖底のゴミを回収いたしました。9月に終わっております。回収量は昨年並みの3.2tということで終わっております。以上でございます。

(山田会長)

はい。4番をお願いします。

No.4 「稚魚放流調査」

(中本企画課長)

企画課長の中本です。ご説明させていただきます。「サケの稚魚放流調査」でございます。進捗状況でございますけども、11月13日にサケの遡上調査を実施いたしました。東郷川の方でサケの遡上を確認したところでございます。それで、12月につきましては、町報等ホームページに掲載させていただいたところでございます。12月22日には発眼卵を受け取り、飼育を始めたところでございます。それで、3月20日に松崎幼稚園、東郷小学校の5年生、衛生研究所と合同で稚魚の放流を行ったところでございます。それで、今回150匹程度を町として放流したところでございます。目標としましては100%ということでございます。以上です。

(山田会長)

はい。今の1から4までで、何かご質問や確かめたいことがありましたらお願いします。よろしゅうございますか。また、後ほどお聞きしますけども、パートパートで時間を設けますのでありましたら、おっしゃってください。次の5番から13番までの観光のところをいきたいと思えます。5番をお願いします。

No.5 「池等の産物料理メニュー化促進」

(清水産業振興課長)

はい。「池等の産物料理メニュー化促進」ということで、大きな目標はスッポン養殖でございます。昨年、スッポンを養殖いたしまして、生存率50%で目標の60%に届かなかったわけですが、11月11日に新たに稚ガメを430匹放流いたしました。3月26日、明日でございますがスッポン料理のお披露目ということで、明日、お披

露目会を行うこととしております。それから、ウオーキング弁当でございます。商工会女性部の方にお世話になって、ウオーキング弁当を出しております。2月末現在で570個の販売となっておりますのでございます。以上でございます。

(山田会長)

はい。6番お願いします。

No.6 「カニバス事業」

(清水産業振興課長)

「カニバス事業」でございますが、3月末がこの「カニバス事業」の終わりの時期でございますが、12月13日から運行を開始しまして、利用者は昨年並みの4,500名程度となる見込みでございます。以上でございます。

(山田会長)

はい。7番をお願いします。

No.7 「特産品販売促進活動」

(清水産業振興課長)

はい。「特産品の販売促進活動」でございます。20世紀梨を使った物とか、湯梨浜アイス等を特産品としまして販売活動を推進したところでございます。大きなところで言いますと、10月23日から24日にかけて東京アンテナショップにおいて特産品の販売をして参りました。あと、3月14日に湯梨浜アイスとフルーツ狩りをセットにしました婚活イベントを実施したところでございます。37名の方が参加されて4組が成立したというふうにきております。以上でございます。

(山田会長)

8番お願いします。

No.8 「観光商品造成戦略活動」

(清水産業振興課長)

はい。「観光商品造成戦略活動」でございます。これは、町観光協会と一緒にになりまして、着地型観光商品であります今滝の「滝床料理」等を維持推進し、町の誘客を促進するという目的で実施してまいりました。町観光ガイドの組織の活動がスタートしておりまして、2月末で計37回のガイドの活動を実施したところでございます。お客様からも好評をいただいているというところでございます。以上でございます。

(山田会長)

はい。9番お願いします。

No.9 「燕趙園エリア活性化事業」

(亀田委員)

はい。「燕趙園エリア活性化事業」です。燕趙園、望湖楼を発着とした遊覧船は諸事情により、平成26年度は運行はしておりませんが、燕趙園を主として道の駅燕趙園、そして龍鳳閣等と連携して、来園者増加に努めて参りました。梅林散策などの他団体の企画に参加したり、芝生広場でのグラウンドゴルフの利用者とか、エリアの賑わいが増えていると思います。道の駅で販売の地元特産品も観光客に大変人気があって、そちらの方も今後努力していきたいと思っております。以上です。

(山田会長)

はい。10番お願いします。

No.10 「ホワイトライアスロン in ゆりはま」

(清水産業振興課長)

はい。「ホワイトライアスロン in ゆりはま大会」でございます。選手321人23組の参加がございました。ボランティアといたしましては、目標以上の450人に協力いただきました。選手にアンケートを実施した結果は、そこに書いてありますように、競技の面では90%の方がほぼ満足という回答があったのですが、観光面での満足度は、30%という低い値となっております。27年度においては、この観光面での満足度を増やしていきたいというふうに考えているところでございます。以上です。

(山田会長)

はい。11番お願いします。

No.11 「ゆりはま夏まつり」

(中本企画課長)

「ゆりはま夏まつり」でございます。夏まつりの評価として、アクセス数の件数という形でやっておりました。それで、アクセス数の目標値には達しなかった訳ですが、今回、とまり夏まつり及び水郷祭の来ていただいた来客者数につきましては、昨年よりも5,000人以上増加したという形で書いていますけれども、主催者発表ですので、もうちょっと少ないかもしれませんけれども、当日は天候も良くて来ていただいた方が多かったということでございます。以上です。

(山田会長)

はい。12番お願いします。

No.12 「中華コスプレプロジェクト」

(中本企画課長)

はい。「中華コスプレプロジェクト」でございますけれども、下半期ですが第7回の中華コスプレアジア大会を開催いただいたところでございます。参加、交流は198名が参加され、うち海外からは34名の方が参加というところでございます。現在は、第18回中華コスプレ日本大会を告知して、3月20日から受付を開始しているというところでございます。評価といたしましては、第15回日本コスプレにおきましては、前年度と概ね同程度の参加でありましたけれども、来年度はポスター用の写真を公募することを検討しているところでございます。第7回の中華コスプレアジア大会につきましては、今回は198名の参加と多くのプレーヤーに参加いただいたと。特に外国人プレーヤーの参加は前年度を大きく上回ったということでございます。平成27年度からは更なる発展につなげるため、運営主体を燕趙園さんの方に移行していくということを計画しているというところでございます。以上でございます。

(山田会長)

はい。13番お願いします。

№.1 3 「東郷湖ドラゴンカヌー大会」

(中本企画課長)

はい。「東郷湖ドラゴンカヌー大会」でございます。26年度は8月10日に開催する予定でありましたが、台風11号の影響により中止ということでございます。それで、ドラゴンカヌー教室を23回。下半期は3回ありますが、開催されたということでございます。それと県外のドラゴンカヌー大会に参加してPRを4回実施したということでございます。それと平成27年度に劣化しているパドルを更新する予定というところがございます。それで最終評価でございますが、26年度は中止になったということでございますが、参加チームは73チームの申し込みがあったということで、前年度と同程度の申込数であったということでございます。それと「前夜祭」ということを計画されておまして、マッチレース式のナイトドラゴンをする予定であったということで、27年度におきましても、このような形で進めていくというようなことでございます。以上です。

(山田会長)

はい。いかがでしょうか。観光部門のところでご質問があればお願いします。

観光分野質疑等

(長谷岡委員)

7番の特産品販売促進活動ですが、ちょっとそれとは関係なさそうなことですが、婚活の話が出て、4組が成立したということだったのですが、これはカップルとして成立したのか、最終目標の結婚にたどり着いたのかなというのが1つとですね。それから、トライアスロンのところでアンケートを実施されて、観光面の方が低かったということなんですけども、どういったところが満足に至らなかったとかの分析はされているのでしょうか。

(山田会長)

それでは、その2点についてお願いします。

(清水産業振興課長)

最初の「恋活パーティー」についてでございます。先ほどご説明させていただいた4組というのは、カップルが成立したところまででございます。それと、もう一つのトライアスロンの関係でございます。観光面の満足度ということで、例えばトライアスロンの開催で、テントを出しながら、そこでジジミの汁だとかの料理等を、他のテントの所で飲食を提供したところがございます。そこでは、「美味しい」というような評価をいただいたのですが「観光的な所で宿泊はどうしましたか。泊まられますか」とか、「今後は何処に行ってみよう」というようなアンケートを書いていただくようにしたんですけど、なかなか回答が、例えば「決めてない」とか「もう少しこういったものを提供してほしい」というような回答がありまして、まだ観光に対する満足度が低調でないかなというところがございます。以上でございます。

(山田会長)

他にいかがでしょうか。よろしいですか。じゃあ、次は14番から産業部門。

No.1 4 「水源域森林育成作業」

(清水産業振興課長)

「水源域森林育成作業」でございます。竹林整備事業とあわせまして、タケノコの生産の振興を図り、里山環境の改善を推進するということで取り組んで参りました。26年度につきましては4件で0.8ha竹林整備を実施したところでございます。27年度においても既に2件の要望が出ておりまして、また、4月末に向けては「タケノコ掘り」の体験イベントを現在検討しているところでございます。以上でございます。

(山田会長)

15番お願いします。

No.1 5 「エコファーマーの推進」

(清水産業振興課長)

はい。「エコファーマーの推進」でございます。田んぼの田植えの時期にあわせまして、そこで肥料等を田の中に量を見ながら水を入れて代かきをするわけでございますが、その代かきをした時にいっぱい水を入れておくと、トラクターで代かきをした場合に、肥料と一緒に水路から池まで流れていくということで、「浅水代かき」ということで、取水の水を少なくした取組みを農協等を通じて推進して参りました。その結果、昨年36%に比べて26年度は40%ということで若干ですが、「浅水代かき」については増えたというふうに考えているところでございます。ただ、果樹農家でございます。どうしても果樹農家におきましては、病害虫のために、薬剤散布するわけでございますが、この分の取組みがまだできていないということで、今後、果樹農家に対するエコの推進を図りたいというふうに考えておるところでございます。以上です。

(山田会長)

はい。16番目お願いします。

No.1 6 「シジミの生息環境改善対策」

(清水産業振興課長)

はい。「シジミの生息環境改善対策」でございます。シジミの量が激減して参りまして、これに対して町、それから県、漁協さんと一緒になりながら、昨年、陸上養殖を試みたところでございます。現在、その稚貝でございますが、当初はこの春には池の方に放流できるのではなかろうかというふうに進んでおりましたが、成育がちょっと危ぶまれてお参りまして、現在、漁協さんの前の池の所の籠の中に稚貝を入れて成育を観ているところでございます。秋には何とか池の中に放流できるのではなかろうかというふうな計画をしているところでございます。詳しいことは、今日お見えになっておられます古田所長の方にお聞きいただければ、その現状が分かるでなかろうかと思っておりますので、古田所長その辺はよろしくお参りしたいと思っております。

(山田会長)

じゃあ、お願いします。

(古田委員)

生息環境改善という大きな括りの中で、養殖と言うよりはどちらかと言うと「放流

稚貝の生産」ということでやっています。陸で育てるものですから、十分なエサが必要だということで、水門をある程度安定させる必要があるというようなこともあって、若干成長に滞りがあるかなど。多くはエサの問題かなということで、池の方に移すということで、池の中の自然のエサを十分に与えるということで今対策をやっているところです。

(山田会長)

はい。今の産業部門いかがでしょうか。よろしいでしょうか。ご質問ありますか。

産業分野質疑等

(西尾中部事務所長)

20ページのシジミの関係ですけれども、生産量が減少しているということですが、経過とか推移とかの辺を若干教えていただきたいと思います。

(古田委員)

はい。ちょっと古い経過ですけど、橋津川の改修の時にですね、大量の海水が入ってきて、その時に大発生がありまして、かなり海水が入ってくるので、水門を設置して池の中の塩分濃度、海水の量を制御するというのを続けておられましたけども、それによってシジミの産卵に必要な塩分濃度が不足するということが起こってきて、平成12年くらいに過去最低と言いますか、300t程あったのが10t程に減ってしまったということで、その時にどのように水門をコントロールすればシジミに良いかという試験を平成13年からさせていただいて、14年度、15年度の水門の操作実験で、爆発的に稚貝が発生したということで、その後200tのシジミを毎年生産することができておりますけども、この平成24年度に夏のかなりの高水温だとか、それから海が高潮位で、雨が降らない、風が吹かないという年がございまして、それで酸欠だと思えますけども、折角大きくなったシジミが大量に壊死したと。その後、従来どおり水門をコントロールしても、なかなか安定的な生産ができないということで、もう一度それを甦らせようということで、東郷湖漁協さんと共に新しい「水門操作の高度化」という調査を今年度から開始しております。かなりの事が見えてきました。現在、平成24年度に大発生したシジミの稚貝が順調に成育しつつあって、今年あたりから再び漁獲量が蘇ってくるかなと見ておりますけども、25年度生まれ、26年度生まれが少ないと。平成27年には、是非とももう一度大発生をということも目論んでおりますけども、水門という物がございまして、操作一つでシジミが発生したり、しなかったりというのがあるものですから、その辺りを、もちろん治水を第一にして、水門をコントロールしながらシジミの生育環境を整えていくということを考えていきたいと思えます。

(山田先生)

他にいかがでしょうか。じゃあ17番以降の資源のところをお願いします。

No.17 「東郷池周辺地域の浸水対策」

(岸田建設水道課長)

建設水道課です。「東郷池周辺地域の浸水対策」でございまして。松崎から引地地区の堤防の嵩上げでございまして。東公園からポプラ付近の調査設計につきましては、2月

末で完了し、3月末に一部工事を着手予定でございます。ポプラ付近から旭旅館付近の調査設計につきましては、3月末で完了予定としております。樋門設計調査ですが、新橋川ですけれども、これにつきましても3月末で調査は完了予定です。それから、樋門調査。今後、水明荘付近を1箇所追加予定でございます。東郷湖周辺等の嵩上げですが、県道長和田羽合線（門田地区）1工区は完了しております。2工区につきましては、27年6月末を完成予定としております。県道東郷羽合線（南谷地区）それから東郷湖線（長和田地区）の測量設計は3月末で完了予定としております。なお、参考といたしまして、町道門田長江中央線の1期工事は既に完了しております。現在2期工事を実施中で、27年7月に完成予定でございます。目標達成度ですが、河川事業につきましては100%でございます。道路事業の県につきましては90%、道路事業の町につきましては、90%でございます。以上です。

（山田会長）

はい。18番お願いします。

No.18 「東郷湖周辺道路整備事業」

（岸田建設水道課長）

はい。「東郷湖周道路整備事業」でございます。県道東郷羽合線藤津から宮内の区間の歩道設置事業ですが、山切の区間の付近で1期工事は11月末で完了しております。山切の区間で2期工事は、現在工事実施中で、27年8月頃に完成予定と聞いております。県道倉吉青谷線松崎工区ですが、5月23日に住民説明会を開催。計画ルートの再検討及び地権者との交渉を実施いたしました。かなり難航をしていると聞いております。今後、再度地元の意向を確認して、整備方針を検討する予定というふうに聞いております。目標の達成度ですが、県道東郷羽合線につきましては90%。県道倉吉青谷線は10%でございます。以上でございます。

（山田会長）

はい。19番お願いします。

No.19 「東郷荘絵図活用導入事業」

（山田生涯学習・人権推進課長）

はい。「東郷荘絵図活用導入事業」ということで、東郷湖周辺の歴史の掘り起しですとか、文化財の魅力の再発見、情報発信ということを目標に事業を進めさせていただいております。26年度は5月に倭文神社で出土しました国宝の銅経筒が里帰りということでしたが、湯梨浜町は設備的に整っていないということで、町の方で受け入れはできませんでしたが、倉吉の方に返ってくるということで、その展覧会ということで、参加者を募って見学を行いました。それから9月には、「ふるさと再発見」ということで、松崎地区を詳しく訪ねて歩くということで、講座を開催いたしております。それから、10月には、馬ノ山で出土いたしました「線刻人物埴輪」全国的に見ても珍しい埴輪だということで、その魅力と共に東郷湖の変遷の過程から、その辺の文化的な歴史までを含めて広い観点からご講演をいただきました。それから、情報の発信ということでは、ガイドブックを作成したり、それから馬ノ山の標柱の整備、看板の整備ということで、訪れた方に歴史に触れていただく機会を増やそうということで取

り組みを進めております。以上です。

(山田会長)

20番お願いします。

No.20 「ゆりはま塾」

(中本企画課長)

「ゆりはま塾」でございます。町の歴史、伝統、自然等に関する講座で知識・技術等を習得し、次世代への継承を図る人材育成という部分を目的として、実施して参りました。それで、毎月の学習会及び塾を開催されまして、最終的には2月25日に修了証書の授与ということで、終了したところでございます。それで、ホームページ等で活動状況を公開してやってきたところでございます。それで、町としましてはゆりはま塾を開催してきたわけですが、最終的には観光ガイドの方に登録していただいて、そちらの方で今後は進めていくということにさせていただいたところでございます。以上でございます。

(山田会長)

はい。21番お願いします。

No.21 「東郷湖・未来創造会議（天女のふる里づくり事業）」

(中本企画課長)

はい。「東郷湖・未来創造会議（天女のふる里づくり事業）」でございます。今年度は進捗状況としまして、8月6日でございますが、未来創造会議を開きましてフラワーロード事業について協議を行って参りました。それで、部会の方で現地確認をしたりというようなことで「どうやっていくか」「どこのあたりに花を植えていくか」というような協議をして参ったところでございます。3月23日には第2回の会議でフラワーロード事業について協議を行いました。これにつきましては、先程、町長の方もあいさつの方で申しましたが、4月に予定していますけれども、日米友好ハナミズキの植樹予定ということで、4月の下旬にはなるとは思いますが、植樹祭というようなことを、今計画をさせていただいているところでございます。それと、サミットの開催ということで、天女サミットを11月の21日から23日に開催しました。それで、次回の天女サミットの開催については沖縄の宜野湾と協議を行って参りますけれども、今のところ難しいのかなという報告を受けております。それと東郷池の周辺に5基の案内看板を設置し、完了したところでございます。それと出雲山付近のトイレでございますけれども、施設の設計を実施し用地買収等を行い、平成27年にはトイレの設置が完了するというような予定でございます。最終評価の方でございますけれども、天女サミットでございますけれども、福島県の川俣町、滋賀県の長浜市、京都府の京丹後市、大阪府の高石市、沖縄県の宜野湾市という形で首長会議を開催し、今後の交流、連携を促進していこうということで確認し、共同宣言を行ったところでございます。フラワーロード事業につきましては、先程申しました日米友好ハナミズキが決定しましたので、記念式典を開催するように計画しているところでございます。その他、長和田地区に本年度から5カ年計画でございますが、県の公園の中でございます。芝桜を整備していくということで、今年度、一部実施されているというところでございます。

以上でございます。

(山田会長)

はい。22番お願いします。

No.22 「ウオーキングリゾートプロジェクト」

(蔵本健康推進課長)

はい。「ウオーキングリゾートプロジェクト」でございます。4月からこの3月にかけて「ウオーキング教室の開催」それから10月に町制10周年記念の「ゆりはま天女おもてなしウオーク」を開催いたしました。事業の目標といたしましては、教室等の参加者数を400人以上とするとしておりましたが、最終評価の欄に記載しておりますとおり、8月のナイトウオークという結構人数規模の大きい大会が台風により中止となりました関係で、目標に対する達成度は79.8%とさせていただいております。以上です。

(山田会長)

はい。22-1お願いします。

No.22-1 「ウオーキングリゾートプロジェクト（ウオーキング・ノルディックウオーキング大会）」

(中本企画課長)

はい。ウオーキングリゾートプロジェクトの外部の団体の方等にご協力いただいてやっているウオーキングでございます。11月9日でございますけども「東郷池秋の健康散策ウオーキング」を臨海公園の方で実施され125名の参加。それと11月15日でございますけども、NPO未来の方が「100kmウオーク」ということで燕趙園をスタートにやっていただきました。参加者137名のうち韓国からの参加者が14名ございました。それと商工会の方でございますけども「第2回のおもてなしウオーク」ということで開催していただきました。参加者は251名ということでございました。以上でございます。

(山田会長)

はい。22-2お願いします。

No.22-2 「東郷湖周“げんきウオーキング”プロジェクト」

(中本企画課長)

はい。「東郷湖周“げんきウオーキング”プロジェクト」ということで、商工会の方が、先程言いましたけども、実施していただいたところでございます。それで、これにつきましては、観光商品の造成というようなこととウオーキングと一緒に併せて事業展開をしていただいたところでございます。それで、10月より町内観光施設での「げんき梅」のコーナーを展開されているところでございますし、10月の23、24日には東京のアンテナショップでの「げんき梅」の店頭販売をされたということで。それで、12月1日に東京で観光商談会マッチングフェアに参加され、エージェントへ「ウオーキングの町湯梨浜」をアピールしておられます。それと12月18日から20日ですけども、神戸のいしはら商店において「げんき梅」ブランド商品の販売PRを実施されております。それと「げんき梅」のシリーズをふるさと納税のお

礼の品のエントリーという形で、同時にギフトセットを作成。販売へ向けての検討をされております。2月に入りましてからは、「アグリフード EXPO 大阪」への出展。商品PRやバイヤーとの商談を行われておるところでございます。それと観光商談マッチングフェア後のフォローアップ事業を現在されております。それと3月17日でございますが、今年度の「東郷湖げんきウオーキングプロジェクト事業報告会」の実施をされました。それで、この商品開発を今後も進めていくということで、引き続き来年度もこのような形で、旅館組合と連携しながら推進していく計画でございます。以上でございます。

(山田会長)

はい。いかがでしょうか。今の資源関係の所でどんな角度からでもあれば、よろしいですか。それでは、最後、この会議の事だろうと思いますが、23番お願いします。

No.23 「東郷湖活性化プロジェクト推進会議」

(中本企画課長)

はい。「東郷湖活性化プロジェクト推進会議」でございます。この会議でございます。第2回会議ということで、本日27年3月25日に開催させていただいたところでございます。2カ月に1回開催している「主要事業進捗確認会議」にて各事業の進捗状況の確認をしているところでございます。最終評価のところですけども、第2回の推進会議の結果について、ホームページに公開させていただこうということで思っているところでございます。以上でございます。

(山田会長)

はい。いかがでしょうか。全体を通して何かございますか。よろしいですか。じゃあ、次のところで数値目標の説明をお願いします。

(2) 数値目標の達成状況について

環境分野

(前田町民課長)

はい。環境でございます。東郷池の水質CODでございますけども、4.5mg/lと数値目標に掲げて活動をして参っております。現在ですけども、26年度におきましては、2月、3月の数値がまだ未公表でございます。あくまでも暫定数値ということで、ご理解いただければと思いますが、26年度5.8mg/lという状況でございます。以上でございます。

(山田会長)

観光お願いします。

観光分野

(清水産業振興課長)

観光でございます。宿泊客年間20万人ということで数値目標を掲げております。達成状況を見ていただくと分かりますように、25年度におきましては178,296人ということで、出雲大社の遷宮の影響もありまして増えておりました。26年度におきましては、その影響がありまして165,940人ということで13,000人程減となっております。創生事業の中で、これから「地域消費喚起・生活支援型」

ということで、取組を作っているわけですが、これを達成するためにこのまま20万人を目標に頑張りたいというふうに考えておるところでございます。以上です。

(山田会長)

産業のところをお願いします。

産業分野

(清水産業振興課長)

はい。シジミの漁獲量の年間200tということで書いております。達成状況を見ていただきますとおり18年度、20年度、21年度あたりは約200t獲れていた状況でございます。25年度からドンと漁獲量が減ったわけでございますが、先程来、所長さんが言われております平成24年度海水温の上昇等変化、それと平成25年度におきましては、更なる環境の変化によって獲れなかったというようなことがあって、27年度におきましては、24年度産の稚貝が増えるでなかろうかという話を聞いたところで、何とか200tに近づけて参りたいというふうに考えておるところでございます。

(山田会長)

資源の方でございますか。

(中本課長)

資源の方は、先程個々でご説明させていただいておりますので、省略させていただきます。

(山田会長)

じゃあ、数値目標に対して何か皆さんの方からございますでしょうか。

数値目標質疑等

(西尾中部総合事務所長)

1点だけ、環境のところの水質4.5mg/lというのは、東郷湖の基準として設定されているものが、ここで使ってあると思ったら良いでしょうか。

(前田町民課長)

そうですね。県の水質管理計画が、水質4.5mg/lということですので、それに合わせているという状況です。

(山田会長)

そこら辺に関しては後ほど意見交換の時に、ご説明いただきながら意見交換したいと思います。他は何かありますか。じゃあ(3)の来年度の事業計画についてということでお願いします。順番で行きましょうか。要点的にお願いします。

(3) 平成27年度事業計画について

No.1 「水草(セキショウ藻)の移植について」

(前田町民課長)

はい。最初に環境関係でございます。まず、「水草(セキショウ藻)の移植」ということで、27年度におきましても26年度に引き続き、保護、それから東郷池で増やす。そういう活動を行っていきたいというふうに考えております。

No. 2 「東郷池を守るアダプトプログラム制度の推進」

(前田町民課長)

続いて、No. 2 でございます。「東郷池を守るアダプトプログラム制度の推進」ということで、参加団体を現在よりも2団体増ということでは掲げておりますが、団体数よりも参加人数を、今後は重視していきたいというふうに考えております。以上でございます。

(山田会長)

はい。

No. 3 「内水面の環境保全」

(清水産業振興課長)

No. 3 でございます。「内水面の環境保全」ということで、平成26年度と同様に池の環境保全をするとともに、魚介類の生息域の拡大を図るためのクリーンアップ事業を実施したいと考えております。以上です。

(山田会長)

はい。4番お願いします。

No. 4 「稚魚放流調査」

(中本企画課長)

はい。「稚魚の放流調査」でございます。27年度もサケを飼育し放流を実施していきたいと計画しているところでございます。

(山田会長)

はい。続けていきます。5番お願いします。

No. 5 「池等の産物料理メニュー化促進」

(清水産業振興課長)

はい。「池等の産物料理メニュー化促進」ということで、26年度と同様に年間宿泊客数20万人を目標に、はわい温泉・東郷温泉旅館組合が実施している「スッポン養殖事業」によるスッポン料理のメニュー化について、旅館組合と協調していくということで、地方創生事業と関わる取り組みについても頑張っていきたいというふうに考えているところでございます。以上です。

(山田会長)

はい。6番お願いします。

No. 6 「カニバス事業」

(清水産業振興課長)

「カニバス事業」でございます。これも26年度と同様でございます。はわい温泉・東郷温泉旅館組合の事業によります冬季の誘客事業「カニバス」を当年度も実施して参りたいというふうに考えておるところでございます。

(山田会長)

はい。7番お願いします。

No.7 「特産品販売促進活動」

(清水産業振興課長)

「特産品の販売促進活動」ということで、これにつきましても26年度と同様に町の特産品「20世紀梨」等を使った商品を、東京新橋のアンテナショップ等にイベント出展し、町の魅力を発信するのとあわせて、地元食材を使ったアイスクリームを製造販売し、町の食の魅力として発信していくというものでございます。

(山田会長)

8番お願いします。

No.8 「観光商品造成戦略活動」

(清水産業振興課長)

はい。「観光商品造成戦略活動」でございます。これも昨年と同様に、町観光協会の着地型観光商品であります今滝「滝床料理」等の企画、観光ガイドを維持推進し、町の誘客を推進したいと考えております。以上でございます。

(山田会長)

はい。9番目お願いします。

No.9 「燕趙園エリア活性化事業」

(亀田委員)

「燕趙園エリア活性化事業」です。27年度は開園20周年という節目の年でありまして、周辺と益々連携を取りながらイベントを開催して、賑わいの創出を図っていきたくて思っております。先程もありました「中華コスプレ大会」におきましては、燕趙園主体でということを進めて参りたいと思います。以上です。

(山田会長)

10番お願いします。

No.10 「ホワイトライアスロン in ゆりはま」

(清水産業振興課長)

はい。「ホワイトライアスロン in ゆりはま大会」でございます。大会は6月21日でございます。それに向けて、今、進めているところでございます。協議を通して湯梨浜町の魅力を情報発信し、地域経済への波及効果及び観光振興を図るという目的で実施いたします。以上でございます。

(山田会長)

はい。11番お願いします。

No.11 「ゆりはま夏まつり」

(中本企画課長)

はい。「ゆりはま夏まつり」でございますけども、引き続き27年度も両方の祭りを維持していきたいと考えておるところでございます。以上でございます。

(山田会長)

12番お願いします。

No.1 2 「東郷湖ドラゴンカヌー大会」

(中本企画課長)

「東郷湖ドラゴンカヌー大会」でございますが、27年8月23日にハワイ夢広場を会場に、大会を開催するように予定にされているところでございます。それで、目標チームは100チームを目標に、県内外のチームを幅広く募っていくというようなことでございます。以上でございます。

(山田会長)

はい。13番お願いします。

No.1 3 「水源域森林育成作業」

(清水産業振興課長)

「水源域森林育成作業」でございます。26年度同様に竹林整備事業と併せて、タケノコ生産の振興を図り、里山環境の改善を推進して参りたいというように考えております。以上でございます。

(山田会長)

はい。14番お願いします。

No.1 4 「エコファーマーの推進」

(清水産業振興課長)

はい。「エコファーマーの推進」でございます。26年度と同様に環境に優しい水稻・果樹経営農業者の育成に努めて参りたいというふうに考えております。水稻のエコファーマーについては、10名増を目指したいと。それから、果樹農家に係るエコファーマーにつきましては、認証取得に向けた取り組みを協議して参りたいというふうに考えているところでございます。以上です。

(山田会長)

はい。15番お願いします。

No.1 5 「シジミの生息環境改善対策」

(清水産業振興課長)

「シジミの生息環境改善対策」でございます。これも26年度と同様に引き続き行いたいと考えております。シジミの増殖及び湖内の水質浄化のために、東郷池の野花川付近で覆砂事業を実施します。併せて陸上飼育、そして稚貝の放流を実施したいというふうに考えております。

(山田会長)

16番お願いします。

No.1 6 「東郷池周辺地域の浸水対策」

(岸田建設水道課長)

「東郷池周辺地域の浸水対策」でございます。これは、継続で実施をしていくものとなっております。以上です。

(山田会長)

はい。17番お願いします。

№.17 「東郷湖周辺道路整備事業」

(岸田建設水道課長)

「東郷湖周道路整備事業」でございます。これにつきましても、引き続いて事業を進めていく予定としております。以上です。

(山田会長)

はい。18番目お願いします。

№.18 「東郷荘絵図活用導入事業」

(山田生涯学習・人権推進課長)

はい。「東郷荘絵図活用導入事業」でございますが、平成26年度に引き続き、周辺の魅力の再発見、情報発信するために、講演会・講座等を開催していきたいと思えます。以上でございます。

(山田会長)

19番お願いします。

№.19 「東郷湖・未来創造会議（天女のふる里づくり事業）」

(中本企画課長)

はい。「東郷湖・未来創造会議（天女のふる里づくり事業）」でございます。27年度でございますが、新たな事業として、先程、町長の挨拶でもありました「天女のモニュメント」の設置を計画しておるところでございます。それと天女伝説を紹介する本の出版ということで、これも出版していこうというような計画をしております。それと、フラワーロード事業の推進でございますけども、まだ、公園との協議が必要でございますけども、公園の中にもう少し花を植えていきたいなということで協議を進めていこうと計画しているところでございます。以上でございます。

(山田会長)

はい。20番お願いします。

№.20 「ウオーキングリゾートプロジェクト」

(蔵本健康推進課長)

はい。「ウオーキングリゾートプロジェクト」でございます。実施の方針の所をご覧いただければと思いますが、4つの◆に記載しております。教室につきましては、例年どおりの計画でございます。次の韓国との交流につきましては、韓国の関係者との交流を促進したいと考えております。それから、10月に予定されております「アジアトレイルズカンファレンス」の際に開催されますウオーキングイベントにあわせた「ゆりはま天女おもてなしウオーク」を開催したいと考えております。それから、ウオーキングリゾートをはじめといたします本町の地域資源をPRするために、高速バスのラッピングを計画しているところでございます。以上です。

(山田会長)

はい。20-1お願いします。

№.20-1 「ウオーキングリゾートプロジェクト（ウオーキング・ノルディックウオーキング大会）」

(中本企画課長)

はい。ウォーキングリゾートでございます。こちらにつきましても、引き続き外部団体のSUN-IN未来100kmウォーク、東郷池秋の健康散策ウォーク、龍鳳閣のまちなみグルメウォーキングというような形で進めていく予定でございます。それと健康推進課長が言いましたけども、「アジアトレイルズカンファレンス」「ワールドトレイルズカンファレンス」に向けて、今後、県及び1市4町等々一緒になって進めて参りたいと考えておるところでございます。

(山田会長)

はい。20-2お願いします。

No.20-2「東郷湖周“げんきウォーキング”プロジェクト」

(中本企画課長)

はい。「東郷湖周“げんきウォーキング”プロジェクト」ということで、商工会の関係でございます。商品開発も行われました。それにつきまして、今後推進していくということで、引き続き行っていただけるというようなことで聞いているところでございます。以上でございます。

(山田会長)

はい。21番お願いします。

No.21「東郷湖活性化プロジェクト推進会議」

(中本企画課長)

はい。「東郷湖活性化プロジェクト推進会議」でございますが、今後、5月頃の意見交換会も考えておるところでございますので、その時にはご参加いただきたいということでございます。以上でございます。

(山田会長)

はい。そういうことで、ちょっと大急ぎでしたけども、27年度計画説明していただきましたけども、何かご質問ありますでしょうか。なにか皆さんご質問なり、注文なりあれば。

平成27年度事業計画質疑等

(古田委員)

15番の「シジミの生息環境改善対策」でございますけども、計画の中には覆砂と陸上養殖を支援するという2つの項目が組み込まれておりますけど、先程ご説明させていただきましたけども、現在、水門の操作の高度化、水門操作マニュアルの高度化というものを東郷湖漁協さん、私ども、それから衛生環境研究所さん、あと、鳥取大学さん、更に湯梨浜町が入った「東郷湖サロン」というものを一昨年、衛生環境研究所で開催しまして、いろんな観点から東郷池の水質環境を守りつつ、シジミを増やすということで、もう一度シジミを200t、300tというレベルに、なるべくお金をかけないで、水門操作の治水操作の範囲の中でコントロールしてできないかということで、既に橋津川と湖内にリアルタイムで取れる水質センサーを備え、有酸素だとか塩分などをチェックしながら実験を進めております。それで特にキーになるのが「水門」なものですから、水門操作の管理の点から委託をしております湯梨浜町さんもお協力いただき、わずか10tのシジミが水門操作によって200t、300tと爆発

的に増えるということは、これまでわかっておりますので、是非ともご計画の中に入れていただければ、町も取り組みやすいかなと思っております。

(山田会長)

はい。他にいかがでしょう。

(中前委員)

16番の東郷池周辺地域の浸水対策なんですけども、県の方が実施主体となって嵩上げをどんどん進めてきておられるんですけども、これも県の役で見させてもらったんですけど、内水被害がすごい気になっています。道路等は全部上がるんですけども、小っちゃい水路は東郷池と繋がっていますよね。それで東郷池が高潮の時なんかは溢れるような感じになると。そうした場合には、そっち(東郷池)から入ってくるのとかなかで、水門か何かの設置が必要になるのではと思うんですけども、県の方としては、そういうものは町の方がするようになるだろうという話をしておられたんですけども、それはどういうふうになっているのですか。

(山田会長)

はい。お願いします。

(岸田建設水道課長)

東郷池自体は2級河川ですので、県が管理すると。それで、内水に対しましては町がやっ行って行かなければならないということで、県と町で協議といいますか調査を含めたところで協議をやっておりますので、内水の関係も成果が上がってきておりますので、これからこういった格好でいくのか検討を、今後していくということです。

(中前委員)

何らかの動きはあるということですか。

(岸田建設課長)

県と一緒にやっております。

(中前委員)

わかりました。

(西尾中部総合事務所長)

ひとつ報告をしておきますと、東郷湖から松崎に入る所にいくつか水門があるんですけども、その所の水門は、今、設計をしております。釣具屋さんの所の辺にあるのと水明荘の西側のあたりだったでしょうか。その2箇所を設計して釣具屋さんの方は、ほぼ設計が出来たので来年度からでも工事に入ると。まあ、東郷湖側の所はそういう準備をしている。あと、問題は内側の方の所というのは出てくると思います。

(中前委員)

わかりました。

(山田会長)

あとはいかがでしょうか。よろしいですか。この20番の辺にあった「アジアトレイルズカンファレンス」とか「ワールドトレイルズカンファレンス」とか、もう少し補足してのご説明がありますか。

(中本企画課長)

「ワールドトレイルズカンファレンス」ということで、ウオーキングのそういう協会といいますか。そういうものがありまして、韓国が主として協会が動いておられるわけですが、それを招致するというので、28年度に「ワールドトレイルズカンファレンス」というような会合があります。それに合わせて、その前に「アジアトレイルズカンファレンス」ということでアジア大会を開催するというのでございます。それで、まず27年度は「アジアトレイルズカンファレンス」28年度は「ワールドトレイルズカンファレンス」という形で、湯梨浜町の中でもそのコースの設定があるということで、国内の方も参加していただいて、大会を盛り上げていこうという形で、今、進めているところでございます。

(山田会長)

今年の10月の終わりの土日の辺にアジアの部分があって、来年の同じ頃に世界大会がありますということですね。

(中本企画課長)

17、18日です。

(山田会長)

ということで、会議だけでなくウオーキングをそこにひっかけてやりたい。この中部が舞台です。それで、湯梨浜が一番の舞台になると思います。

(西尾中部総合事務所長)

燕趙園さんの20周年という話を、先程出されまして。9番の分ですかね。この20周年は何か行事的なものとかですね、何かにあわせて盛り上げよう。そういうふうなところというのは、今の段階ではどんなところでしょうか。

(亀田委員)

単発的なイベントですと、すぐそこで終わってしまいますので、27年度を通して「20周年」という冠をつけて、ロングランでイベントをしてアピールしていきたいと思っています。毎年、夏には2カ月程日本海新聞社さんと一緒になっての(イベントとして)26年度は「トミカ」をやりましたが、27年度もやるような計画をしていますし、年間を通じてロングランでイベントを組むということで(考えています)。

(山田会長)

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。また、ちょっと今日の内容も入るかと思いますが5の意見交換(1)報告事項の所いきます。「東郷池における住民意識を取り入れた新たな環境指標について」というので、まず最初に事務局の方からご説明をお願いします。

5. 意見交換

(1) 報告事項「東郷池における住民意識を取り入れた新たな環境指標について」

(中本企画課長)

前回の推進会議の中でございますけれども、今後は、テーマを決めて意見交換会を実施してみたいということでございました。それで、今回の意見交換のテーマとして「環境」ということでございましたので、環境についての皆様のご意見をお聞きしたい

なあとということでございます。それで、その意見交換会に入る前に、「東郷池における住民意識を取り入れた新たな環境指標について」ということで、衛生環境研究所の宮本研究員さんの方にご説明をいただきたいなと思っております。その後、私の方が資料1とかつけておりますけども、どういったものかということ、若干、ご説明させていただきますたいと思います。以上です。

(山田会長)

はい。じゃあ、お願いします。

(衛生研究所宮本上席研究員)

はい。県衛生環境研究所の宮本です。今回、3年事業の最終報告となります。私達の方では「わかりやすい環境指標」ということで、水の色に注目しまして、その有効性を評価したところです。大きく分かったことが3点あります。まず、1点目として、水の色というのは、CODを含む多くの水質の指標になり得るということが分かりまして、ちょっとこの図を見てください。水が最も良い時は黄緑色。そして、最も悪い時は茶色のような色となると。そして注目すべきは、水質が良い時の黄緑色というのは、東郷池の第一期の計画目標値であるCOD4.5をほぼ満たすということが分かったことです。環境面だけでなく、住民さんの意識の方についても調査を行いました。その結果、この黄緑色が東郷池の色として相応しいという意見が、アンケートの全回答の40%占めるということが分かりました。そして、最後に黄緑色というのは東郷池の本来の色で、101年前に調べられた色とほぼ同じということが分かりまして、以上を踏まえて東郷池にふさわしい色として黄緑色というのを簡易指標に使えるのではないかなということ、我々は結論を付けました。以上です。

(山田会長)

じゃあ、中本課長の方から。

(中本企画課長)

はい。そうしますと、環境指標という形で、先程この推進会議の中でもCODの目標値を4.5というような形で、東郷湖の水質管理計画の中で示されている値が4.5ということで、設定させていただいているところでございます。それで、どういう指標なのかなということ、なかなかこれというものはないわけですけども、環境省が出している「生活環境の保全に関する環境基準」というものがございましたので、参考にとということで、今日はこれをつけさせていただきました。例えば一番上でございますけども、化学的酸素要求量CODでございます。また、AA、A、B、Cという形で項目類型の基準がございます。その中で例えば、AAでいきますと1mg/l以下、Aでいくと3mg/l、Bでいくと5mg/l以下、Cでいくと8mg/l以下というような形で環境省が出している環境基準がございます。それで、利用目的の方を見ていただくと、どういうものに適応性が有るのかということ、Aでいきますと水道の2級、3級、水産でいくと2級というような形のものが出ておりました。それで、Bでいきますと水産3級、工業用水1級及びCの欄に掲げるもの。Cでいきますと工業用水2級、環境保全ということでございます。それで、利用目的の適応性という所がどういう内容かというのが下の方の注意書きの方でございます。水道1級というの

は、ろ過等による簡易な浄水操作を行うものということで、まあ、まあ飲めるのだろうと。ろ過程度でできるというような水質と同等なきれいな水だというようなことがいえるのかなと思います。それで、水道2級3級については沈殿ろ過等をするということで、前処理等の伴う高度な浄水操作を行うというような水ということになっています。それで、水産1級、2級、3級というのがございます。水産1級というものはCODでいきますと、1mg/l以下のございます、ヒメマス等貧栄養湖型の水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用が住める状況というようなことをございます。水産2級につきましては、サケ科魚類及びアユ等の水産生物用というようなことをございます。水産3級というものは、コイ、フナ等富栄養湖型の水域の水産生物用というようなことで、まあ、資料としては出ているということで、この意見交換会の中で参考として出させていただいたところをございます。それで、次のページにつきましては、窒素とかリン及び亜鉛とかというようなものをございましたので、これにつきましてはもつけさせていただきました。窒素、リンにつきましても、今のような類型としてはI、II、III、IV、Vということで、利用目的の適応性についても水道1級とかというような形で出ております。東郷池等につきましても、窒素、リン等も計測されておまして、環境基準には今の定点的な観測数値でいけば、適応しているのかなというようなことが見れるということをございます。それで、まあ、次のウの方につきましても、水生生物の生息状況の適応性ということで、生物A、生物特Aとか生物Bとかということで、どういうものがこのような水域で生息するのかなということで参考にとということでお示しさせていただいたところをございます。以上をございます。

(山田会長)

はい。ということで、環境の基準とか色の話がありましたけども、どんな角度からでも結構ですので、ご質問あるいはご意見でもあれば。101年前の調査ということは大正時代の調査ということですか。それは、ちゃんと調査があるんですか。

(衛生研究所宮本上席研究員)

東郷池で最も古い値が残されたデータです。田中阿歌磨先生という陸水学会の創始者が、その時に日本全国の湖沼を回られた時に調査の一環として、色々やった時の情報が残っています。

(尾崎順一委員)

この緑色はきれいなんですけども、肉眼で見た場合の判断ということですか。

(衛生研究所宮本上席研究員)

はい。そういうふうになります。逆に言えばパッと見てわからないと感じ取ることになりませんので。

(尾崎順一委員)

科学的になんとかではなくて、見た目が「緑ですよ」「茶色ですよ」での評価ですか。

(衛生研究所宮本上席研究員)

まさにそのとおりです。

(尾崎順一委員)

はい。わかりました。

(山田会長)

でも、この水の色って天気と関係しませんか。

(衛生研究所宮本上席研究員)

寧ろ背景の色に引っ張られている等がありますので、私達は白い板を沈めてその反射で…。

(山田会長)

そこで見えるわけですか。

(尾崎順一委員)

曇った日と晴れた日では全く色が違いますか。

(衛生研究所宮本上席研究員)

背景の色の影響が強いですので。

(尾崎順一委員)

白い物に反射すれば、だいたい同じ条件になっているということですか。晴れても曇っても。

(衛生研究所宮本上席研究員)

色の傾向は変わらないです。

(尾崎順一委員)

はい。ありがとうございました。

(山田会長)

いかがでしょう。我々、数値目標をずっと4.5ということでやってきて、現在5.8だったでしょうかね暫定数値で、そこら辺がやっぱり4.5を目指すべきなのか、あるいは、その他の視点が何なんだろうということも含めて、ここで結論がどうだということではなくて、皆さんの意見をいろいろな角度からおっしゃっていただければ結構ですし、日頃思っておられることでも。

(遠藤委員)

この4.5というのが、シジミが繁殖しやすいということと関係してくるわけですか。若しくはその他の魚、例えばウナギとかが獲れるとか、夏季の環境とかにも良いわけですか。

(古田委員)

まあ、水産3級ということで湖沼型ですので、シジミが成育できるとは思いますが、今湖山池はこれ(水の色)でいくと茶色の水なんですが、それと東郷池のシジミの成長を比較すると、製品サイズになるのに東郷池は3年ですけど湖山池は2年と。決してきれいだと言ったシジミが成育するというんじゃなくて、珪藻というエサが、珪藻というのは茶色ですので、珪藻というエサがあるかということが関係しますが、ただ、そうはいつでも他の水質の事もありますし、見た目の事もありますし、臭いの事もありますので、水産3級というところで、実施には清掃が重要なと思います。

(遠藤委員)

ということは、必ずしも4.5、きれいな水が一番シジミにとって良いというわけではないということですか。

(古田委員)

成長の速度からいうとです。エサが多いか少ないかという、まあ、珪藻という植物プランクトンが多いかどうかというのが、成長には関係してくるということで、全国的に見ると、3年で製品サイズになるのは普通です。湖山池は異常に早いと。

(山田会長)

湖山池のCOD値はどれくらいなんですか。茶色ということはどういうことなんですか。

(衛生研究所宮本上席研究員)

湖山池とは塩分が違いますので、プランクトン層が変わっていくと、色がどうしても茶色になるので。

(山田会長)

ああ、そうですか。このCODはどれくらいなんですか。

(衛生研究所宮本上席研究員)

CODはやや高いくらいです。単なる有機酸素の量と必ずしも一致するとは限りません。

(古田委員)

現在、湖山池も東郷湖レベルを目指しています。

(遠藤委員)

湖山池のシジミって市販されているんですか。

(古田委員)

去年の4月からシジミ漁業が生まれました。

(尾崎公栄委員)

ここの稚貝が何年か前に行っているっていう話だったんじゃないですか。前の組合長さんが、湖山池の漁協の方にいくらか(提供した)とかって本人から聞いたことがあるんですけど。

(古田委員)

そうですね。

(尾崎公栄委員)

先月だったかなあ。(湖山池のシジミを)頂いておりまして、大きいです。東郷池のよりも大きいと思いました。

(古田委員)

東郷池のシジミの親を移植しまして、管理場所に。塩分がよく来るところに池縁に移植して囲いで管理してということで、東郷湖漁協さんの協力により実施したということです。

(山田会長)

ここの先程見せていただいたデータで、水浴っているのはAランクで(CODが)3以下になっているんですが、トライアスロンで泳いでいる人たちの東郷池の印象は

どうなんですか。

(清水産業振興課長)

選手の方からは、あまりきれいではないというような印象はやっぱり持っておられます。

(尾崎公栄委員)

私の息子が選手として参加していきまして言っているんですけど、上がった後に自転車に乗って乾いてくると泥臭いっていうか、ヘドロ臭いっていうかだんだん匂いがしてくると言っていました。

(山田会長)

要は色々な角度から東郷池をどう考えたら良いかっていうことを皆さんで議論していただければ良いということで、生態系の問題やあるいはそこで生活していく方の問題やいろいろな角度で、どこが良いのかという話ですね。

(福楽委員)

今、東郷池の周りをタモを持って、白魚獲りをしておられますけども、あれはそのまま食べても大丈夫でしょうか。

(尾崎順一委員)

大丈夫だと思いますよ。東郷池には塩分が入っておりまして、フナとかですねそういった池魚が非常に臭味が無くなりまして、海水が入りますと海の魚のような感じになりまして、臭味が全く、泥臭いというのが無くなりまして、白魚も海から上がってきますので、その点では大丈夫かと思えます。そういった点で非常に泥臭いといった話が先程もありましたけども、その点は解消されつつあるということでございます。

(中本企画課長)

先ほど言いました環境基準の方で言いますと、環境基準のCの所に環境保全というのがあると思いますが、これにつきまして下の5番を見ますと国民の日常生活において不快感を生じない程度だということになりますので、数値から見ますと不快感を感じないとなりますが、やはり、衛生環境研究所さんの宮本研究員さんも調査しておられる五感というところが相当あるのかなという、今のちょっと汚れているとか、臭いとかいうところにあるのかなあと意見交換しながら聞いていたんですけども、五感的な所で調べた結果はどうですか。

(衛生研究所宮本上席研究員)

子どもが聞き取りをするのは、基本的に水に入らない方で、一般の観光者の方のイメージです。それで、取った方の意見を伺いますと、臭いに関するネガティブな意見は皆無でした。だから、池とどういうふうに接するか、まあ、利活用の仕方によって受けるイメージは変わってくるということがありますので、どういうふうに池を利活用するかっていうことを踏まえて検討した方が良いような気がします。

(山田会長)

はい。色の資料を出していただいたんですが、現在はどれぐらいの色と見たらいいんですか。

(衛生研究所宮本上席研究員)

今はちょっと茶色がかっている状況です。それには、ちょっと根拠がありまして、春先は珪藻の発生期にあたりますので、茶色がかかることがあります。

(山田会長)

いろいろな要素があるんですね。

(衛生研究所宮本上席研究員)

それで、ちょっとほかの大学の先生とも話をしたんですけど、人間の目はそもそも緑色に最も感度が良く視細胞が来ていますので、どこの池でも水の色が良い所では緑っぽく見えるというお話でした。普遍性がある色だと思います。

(山田会長)

他はいかがでしょう。また折に触れて色々なご意見を伺わせていただければと思います。

(中本企画課長)

(資料を提示したのは) 目標の4.5というのがどういう数値なのかというのを認識いただけたらなということでございます。

(山田会長)

そういったことを、皆で認識し合ったということでしょうか。それで、もう一つちょっとお話をということで、地方創生の辺のところの話をしてください。

6 その他

(1) 地方創生について

(中本企画課長)

今回、この東郷湖活性化プロジェクトの場をお借りしてでございますけども、町の方が今回、創生事業の方で経済対策も含めてでございますが「地域住民生活等緊急支援のための交付金」という形で2月に補正を行いまして、このことについて若干、ご説明させていただきたいと思っておりますので、資料2というものを見ていただきたいと思っております。今回の緊急支援の交付金ということで2つございました。「地域消費喚起・生活支援型」と「地方創生先行型」というものでございます。まず、消費喚起の生活支援型ということで、町の方には41,132千円というような形での交付金が交付されるということでございます。事業として現在進めておりますのが、まず1の「プレミアム商品券の発行」ということで、1冊10,000円で12,000円分の商品券を8,000冊提供していく。町内の方1人5冊を限度として商品券を発行しようと考えております。2番が「低所得者向けの商品券助成事業」ということで5,000円の商品券を交付するというので、1,600世帯でございます。対象につきましては、生活保護世帯等、それからその他のところでもありますけども、住民税非課税世帯ということでございます。1,600世帯にこれを助成するものでございます。3番でございます。「多子世帯応援商品券交付事業」ということで、18歳未満の児童が3人以上いる世帯に対して5,000円商品券を交付しますということで、350世帯を計画しているところでございます。4番でございます。「プレミアム付道の駅等商品券発行事業」ということで、町の方では未来創造会議天女のふる里づくり事業でもございますけども、森・里・海連環の事業も展開しているところで、その中での道

の駅等での買い物の出来る商品券を出していこうと考えているところでございます。

1冊5,000円で6,000円分の商品券を発行ということで、2,000冊でありますが発行していこうと。そして、道の駅、海の駅、池の駅、町の駅、山の駅ということで、以下の販売店の所で、この商品を販売していこうということです。道の駅はわい、道の駅燕趙園、湯梨浜振興、サカナクワイ屋、Caféippo、パニーニ、龍鳳閣、よどや、三八市、センコー・スクールファームで使用できる商品券を発行していこうというものでございます。5番の「ゆりはま旅行温泉宿宿泊利用助成事業」という形で、本町のイベントに参加する宿泊費を助成していこうということで、宿泊されたイベント参加者に3,000円の助成をしていこうということを考えているところでございます。それと旅館等での同窓会20人以上で参加した場合に、参加者に対して助成を行っていこうと。同窓会の総会を開催される場合には、それに対して助成を行っていくというようなことを計画しております。そして、6番「健康推進・スポーツ振興助成事業」という形で、スポーツ用品の購入費助成ということでございます。グラウンドゴルフのクラブの購入として2,000円を助成していこうということでございますし、ノルディックウォーキングのポールも、これにつきましても2,000円助成していこうと考えております。それと健康増進、生涯スポーツの施設利用助成という形で、龍鳳閣、ゆ〜タウン、潮風の丘の年会費、回数券に対して助成金を、2割ですけれども出していこうというもので、これらが「地域消費喚起・生活支援型」ということで、現在事務を進めているところでございます。それと「地方創生先行型」でございます。これにつきましては、交付金という形で、32,664千円というような形で交付されます。計画といたしましては、地方創生総合戦略の策定ということで、これは総合戦略を策定するという経費的なものでございますので、説明は省略させていただきます。次でございますけれども、「グラウンドゴルフの国際化促進事業」ということでございます。本町が発祥地であるグラウンドゴルフの国際化を図っていくということで、海外プロモーションの活動とか多言語化プロモーションCD普及啓発用の多言語チラシの作成、それと海外選手の招聘を計画しているところでございます。次が「ウォーキング・リゾートの推進事業」ということで、これにつきましては、ウォーキングリゾート構想の一環として、先程言いました「アジアトレイルズカンファレンス」の湯梨浜町ウォーキングコースにおいて、参加者へのおもてなし事業を実施ということと、大韓ウォーキング連盟との相互派遣交流プロモーションを行い、韓国からの入り込み客の増を図っていきましょと。それと最後に高速バスに本町観光のPRラッピングを行うということで計画しているところでございます。それと4番でございます。「観光関連施設情報環境整備事業」ということで、Wi-fiの整備でございます。町内の観光施設という形で、旅館とか喫茶店等でWi-fiを整備される事業者さんに対して、Wi-fi設置に対しての助成を図っていこうということを計画しているところでございます。例えば、事業費が50,000円までであれば、10/10で助成しましょというようなことを計画しているところでございます。5番につきましては「ワールドトレイルズカンファレンス実行委員会負担金」ということで、アジアトレイルズカンファレンス負担金とワールドトレイルズカンファレンスという形での実行委員会

が出来ましたので、そちらの方に負担金を出していこうというようなことをございます。次が6番「名探偵コナン・ミステリーツアー」ということで、これにつきましても、広域的な取組として、県、市町村、JR、観光団体等による実行委員会の方に、コナンミステリーツアーという形で、駅を利用した発信をしていくということで、これにつきましても負担金を出していくというところをございます。7番につきましても、「IJUターンの促進」ということで、移住定住相談会への積極的な参加と、移住情報を一元化したパンフレットを作成して、今後、魅力発信を図っていこうと思っています。8番「空き家情報バンクの活用促進」ということで、空き家情報バンク登録物件に町外者が転入する場合に、空き家所有者が改修等を行う費用を助成するというところをございます。次が「若者夫婦・子育て世代住宅支援事業」ということで、35歳以下の夫婦、中学生以下の子どもが2名以上いる夫婦が住宅新築や購入をした場合に助成金を出していこうということをございます。一応、上限としては50万円。それと、土地開発公社の方の分譲地の場合は100万円の助成を出していこうということで計画しているところをございます。次のページでございますけども「家庭子育て支援事業」というところをございます。低年齢児の子育て支援ということで、育児休業給付のない父又は母親への子育て支援ということでございます。年間40世帯を予定していますけども、1世帯あたり3万円を12カ月。1年分でございますが出していこうというような形で計画しています。それと「ワークライフバランスのセミナー」ということで、中小企業者、人事・労務担当者、一般労働者に対してワークライフバランスのセミナーを開催し、企業の就労規則の制定とか育児休業制度の制定を促進するというところをございます。セミナーを開催していきたいと考えております。それと「ゆりはまじげ産業支援事業」という形で、湯梨浜町の温泉水を活用したスッポン養殖事業などの新商品開発とか6次産業化ということをございます。それで、今回の先行型といたしましては、スッポン養殖、サカナクワイ屋等への業務拡張を支援するというところをございます。次は「アロハカーニバル事業」ということで、26年度アロハカーニバルを実施してきました。それにつきましても、今後、広げていこうということで、また、新メニューの開発とかイベント費用という形で計上させていただいたところをございます。次は「農産物の販路拡大、ブランド化」ということで、湯梨浜町の20世紀梨を初めとする農産物・加工品の新たな販路拡大ということでブランドセールスを図るため、海外トップセールスに香港等に行かれるということを知っておりますし、国際フォーラム等の出展参加等を積極的に推進して、町内農産物・加工品の新たな販路拡大を図るということで、海外プロモーション経費、国内プロモーション経費ということで計上させていただいております。次が、「防災対策特別強化事業」ということで、各集落防災意識高揚と地域住民が主体的・意欲的に自助・共助に取り組む支援策として、防災対策に深く関わっておられた自衛隊OBを防災指導員として配置するというところをございます。それと「介護予防・健康づくりリーダーゆりりんメイト養成事業」ということで、介護予防の活動、健康づくりの活動の指導推進・支援を行うボランティアを養成するというところをございます。地域の方に講座を受けていただいて、リーダー養成を図っていくというところをございます。それと、最後に

ございますが「小地域拠点集会所等バリアフリー事業」ということで、地域の自治公民館、集会所等で、地域交流の拠点としてバリアフリー化の改修を行う公民館等に助成金を出していこうということで、上限100万円の2/3で5集落分を今回の補正に計上という形で計画をさせていただいたということでございます。それで、最初の方の「生活支援型」というのは、この補正で終わると思いますけども、今後、5年間かけて「地方創生戦略」というものを9月末に向けてではございますが、計画を立てていこうということで、人口減少対策に対する総合的な戦略ということで、皆さんの方には5月開催する予定としておりますけども、人口減少対策に対してこういう案があるぞというようなことがございましたら、その節にお伺いしたいということでございます。それで、また、こういうことで考えているというようなことを骨子のような物も早めに作っていかねければならないわけですが、骨子等も会合までにできましたら、お示ししてご意見をいただきたいということでございます。本日も、ご意見があればお伺いしたいと思います。以上です。

(山田会長)

はい。ちょっと確認ですけども、今ご説明のあった「生活支援型」というのは、いつからいつまでの事なんですか。

(中本企画課長)

27年度いっぱいとなると思います。繰越事業でありまして、もうすでに事務に取りかかっているものでございます。実際は、サービスの提供は4月1日からとなると思います。

(山田会長)

4月から向こう1年間ということですか。

(中本企画課長)

はい。そのような形で動いております。

(山田会長)

下の「先行型」というのは、先程おっしゃっていた5カ年ぐらいでいくんですか。

(中本企画課長)

まず、全体の戦略としては5カ年となっておりますけども、今お示しました3,200万というものは、27年度のみとなります。

(山田会長)

この1年のみということですね。何かご質問等ありましたら。

(宮脇町長)

今、課長が説明しましたけども、資料の「地域消費喚起・生活支援型」というのは、要するにデフレ克服対策で、政府が力を入れて臨時的にやるものだと考えてもらえば良いですし、地方創生先行型というのは、12月27日に国が閣議決定して、国の総合戦略というものを5年間かけて、さっきの人口減少克服を東京の人口を地方に持って行って、事業所も地方に持って行ってというような格好で、地方の再生をして、人口を維持して、持続的発展が可能な国を作るという大目標のために、5年間でやることを総合戦略で定めると。それで、県も国と同じように地方版のそれを定めるとなっ

ています。県の方は、現段階で既に骨子の方は作成しております。それで秋に向けてこれを作り上げていくと。それで町も同じようなタイムテーブルでそれを実現したいと考えております。それで、その際になるべく産業界、それから行政、学識経験者、それから金融機関、言論界、労働団体といった、そういう方たちを含めた委員会を組織して、どうやってそういう町を作っていくかという選定をするわけですけども、まあ、今回は一応役場の中だけで「こういったものやっつけていこうよ」というものを職員から意見を吸い上げたりして、そういったものを「先行分」として挙げていると。これから、その骨子なり本格的な戦略の策定に向かっていくと。まあ、この資料を見ていただければわかりますように、第1次産業の後継者も含めた振興ですとか、あるいは雇用と就労の場をどう作るかといった部分について、本質的なものが欠けているようなこともお感じになった方もあろうかと思えます。まあ、これは1つには、既に国とかの補助事業があるものについては、この地方創生とは別枠でその補助事業でやりなさいよという感覚になっており、外れている部分がありますし、まあ、實際上それ以外にどういうことをやっつけていくかと湯梨浜にあったものはどういったことがあり得るかということの戦略なり、目標なりがつかめていないという現状があるせいもあろうかと思えますけども、その辺のご意見を皆さんの方からも、是非、具体的な提案として聞かせていただければ、それを参考に作ってみてはどうか、活かしていただければというようなイメージでお願いするものです。

(長谷岡委員)

5番のゆりはま温泉宿の助成事業なんですけど、②の温泉宿の同窓会なんですけどこれは事業所の会で使うことはできないですか。

(宮脇町長)

これは、予算の関係もあって、1つは温泉宿の支援というものを。まあ、湯梨浜町内で全国大会をいくつもやっていますが、来られた方が必ずしも湯梨浜の温泉に泊まれるということではなくて、料金の安いビジネスホテル等に泊まったりすると。県外から来られる方については、やっぱり湯梨浜の温泉宿に泊まっていただいて、良さを実感していただけて、地域雇用に結びつけばというようなことで、1泊につき3,000円ということを考えついたんですが、これを全体的に議会で説明した時に「でもみんながフィードバックするようなことにはならないですね」と。この温泉部分について町民のためにフィードバックする部分があってもいいのではないかなということで、同級会をやっていただく方に助成すればと。そうしたら、ふる里に帰って参加される方の助けにもなるというような関係で宿泊とは切り離れた形で計画しました。

(山田会長)

いくらぐらいの助成なんですか。

(宮脇町長)

ひとり2,000円です。20人だったら40,000円。30人だったら60,000円となります。

(山田会長)

ほかにありますか。本質的な事は、先程町長さんが言われたように次回の時に湯梨浜をどうしたらいいのかなという意見を、気楽な立場で教えていただければなと思いますので、次回は活性化プロジェクト+この創生の部分についても意見を伺わせていただきたい。もちろんそれが町と重複したら、それはそれで良いということで、準備しておいてください。でも、今日これをいっておきたいということがあれば。事務局何かありますか。じゃあ、次回は概ね5月の下旬ぐらいでこの活性化プロジェクト+地方創生についてもご意見を伺う会にしたいと思いますのでよろしくお願いします。ちょうどお約束の時間となりましたので、これで終わらせていただきます。ありがとうございました。